

104 春の風景 弦と楽しむ歌の演奏会
H22.4.4

105 地域の芸術文化資源の把握と情報発信
—鳥取県野外彫刻データマップ作成と
活用方策調査研究—
H22.4.5～H23.3.31

106 アルテフェスタ2010 ダンスポケット2010春
舞踊家ジャッキー・ジョブと鳥取の踊る仲間
H22.4.18

107

108 アダム・ベンジャミン ダンス・ワークショップ
dance,space,time
H22.4.29

109 ワークショップはおもしろい
H22.6.27

110 Trio TANABATA セタコンサート
H22.7.7, 7.11, 7.17, 7.18

111

112 幕末の名石工「川六」狛犬見学ツアー
H22.7.11

113 歌曲の夕べ(アルテフェスタ2010) &
室内楽の夕べ
H22.7.28～29

114 星空コンサート 音の絵本「よだかの星」
H22.7.31

115 平成22年度 鳥取オペラ協会公演
モーツアルト作曲オペラ「フィガロの結婚」公演
H22.8.29

116 芸術をかじってみませんか
～コミュニティアート講座
H22.8.27～H22.10.23

117

118 ワークショップデザイナー育成プログラム
H22.9.5～H23.1.26

119

120 財団法人鳥取市文化財団10周年記念事業
仁風閣の樹下美人
—石谷孝二 加彩テラコッタ展—
H2.10.1～10.17, H22.10.1, H22.10.10

121

122 平成22年度のアートフォーラム用
ポスター等デザイン
H20.12.16

123 鳥取オペラ協会
韓国江原道芸術文化団体総連合との親善交流
メノッティ作曲オペラ「電話」公演
H22.10.18

124 音の絵本コンサート スーホの白い馬
H22.11.2, H23.1.29

125 ダンスポケット2010秋
H22.11.3

126 アートフォーラム2010
湯村光 講演会「彫刻家 湯村光の視座」
H22.11.7

127 創造への扉 みんなでつくる
「ブレーメンの音楽隊」と
オペラ「ヘンゼルとグレーテル」
H22.11.13

128 鳥取大学サロンコンサート
X[iksa]LIVE in 鳥取大学
H22.11.16

129 ミニ・アート・フォーラム「商店街を劇場に」
H22.11.29

130 湖山池 ずぶずぶ もっと ずぶずぶ
H22.12.1～5

131 レクチャー&ワークショップ
「茶の湯としての演劇」
H22.12.17

132 劇団衛星公演 珠光の庵
H22.12.17～18

133 平成22年度 青少年のためのオペラ入門
H23.2.17, 2.25

134 アルテフェスタ2010
こどもミュージカル「ピノキオ」
H23.2.18, H23.2.23

135 アートフォーラム2011
やなぎみわ講演会「老いの表現をめぐって」
H23.2.20

136 作曲工房「パパゲーノ」コレクションV'11
H23.3.5

137 はーとぴあ・ダンス発表会
H23.3.26

138 アルティッシモ!! 平成19年度～22年度
各年度末

139

事業形態

講演

上演

展示

制作・創作

調査・研究

ワークショップ

その他

担当者名

開催期日・期間： / 場所：

財源： / 主催・後援・共催・協力など：

参加者数：

地域別



事業内容

地域学研究科の授業「地域フィールドワーク」の一環として、大学院生の中橋芳恵が企画し、わらべ館との連携事業として行なったコンサートである。

中橋芳恵のピアノと歌、ゲストのヴィオラ奏者、生原幸太氏の独奏及び鳥取西高等学校管弦学部の特員の有志も演奏(写真)するというバラエティに富んだ内容で、子どもから大人まで楽しめるコンサートとなった。わらべ館を訪れていた大阪からの観光客のグループが、鳥取の子供たちと楽しそうに一緒に歌っていたのが印象的であった。



春の風景～弦と楽しむ歌の演奏会～

第一部:教科書から選んだ春の歌

ちょうちょう 霞か雲か 夢の世界を マイバラード BELIEVE 他

第二部:弦楽合奏の響き

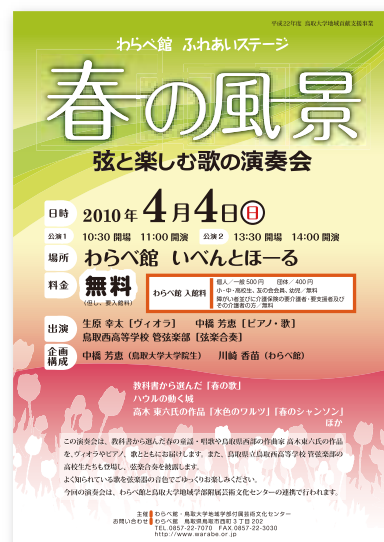
世界の約束～人生のメリーゴーランド

第三部:鳥取県出身 高木東六の作品を知る

シリエンヌ(フォーレ) テラス 朝鮮の太鼓 春のシャンソン
水色のワルツ

第四部:みんなで歌おう

春の歌メドレー 春が来た～春の小川～朧月夜～茶摘



開催期日: H22.4.4 (2回公演) / 会場: わらべ館 イベントホール

財源: 鳥取大学地域貢献支援事業 / 主催: わらべ館・鳥取大学地域学部附属芸術文化センター

参加者数: 約300名 (2回公演の延べ人数)



地域（鳥取県内）の芸術文化資源の把握と情報発信 ——鳥取県野外彫刻データベースマップ作成と活用方策調査研究——

調査・研究

五島・平井

石谷・高阪



事業内容

地域（鳥取県）が保有している文化資源の活用推進を公共的な視点から掘り起こし、芸術文化資源の把握とそのマップづくりを行った。今年度は地域のもつ芸術文化資源の中で野外彫刻に焦点を当てて調査研究した。鳥取県は米子彫刻シンポジウムや倉吉・緑の彫刻賞の取り組みなど全国に誇れる野外彫刻の実績を有している。その他県内には様々な素材や形態の野外彫刻が設置されているが市民の関心や関連機関の連携は密接とは言いがたく、全県を対象に詳しく調査研究されていない現状である。また、一般には人々にあまり知られていない状況にあり、その文化的、経済的価値が充分活用されているとはいえない。

鳥取県内の野外彫刻を調査してホームページに公開している野外彫刻の更なる充実を図った。

成果

学術的基礎資料の調査研究をベースにしながらもわかりやすく、魅力的なマップ作りを量、質ともに推進し広報発信。

専門家による解説付きの「野外彫刻見学ツアー」を実施し文化的資源の活用方法について調査。

鳥取県野外彫刻設置の彫刻家による講演会を実施し、野外彫刻の意義、その地域活性化について話してもらい市民対象のアンケート調査と分析。

国内外の野外彫刻による先進例を調査研究しその現状と課題を分析。

これらの調査研究の成果を報告書にまとめ鳥取県に報告。

地域文化調査の授業として教育関係機関の野外調査を実施し、その成果を発表した。

調査期間：H22.4.5～H23.3.31／調査地：東京 北海道 北九州 韓国・春川教育大学 鳥取県内

財源：とっとり「知の財産」活用推進事業 鳥取大学地域貢献支援事業

共同調査：有限会社キーワード 代表取締役 谷口輝英 取締役 石田英一



ジャッキー・ジョブ

南アフリカ・ケープタウン出身。

当地でダンス活動を始め、デビュー間もなく1995年ベストダンサー賞、96年若手振付家賞を受賞。94-95年、ケープタウン市内の各種コミュニティにおいて、恵まれない環境にいる子供たちのためにダンス・クラスを開講、指導。97年よりスパイラル・プロダクションを設立し、05年までに計130以上の公演を行い、数多くの作品を発表。

ケープタウン大学芸術学部講師(95-03)を務める他、ヨーロッパ各国より招聘を受けて活躍。イギリス、オランダ他にて招聘作品上演及び指導。2005年国際交流基金特別研究員として来日。

舞踏、能など日本の舞台芸術を学ぶとともに、06年、セッションハウスのレジデンス・アーティストとなるなど、日本各地でソロやミュージシャンらとの共演など精力的に公演活動を行うとともに、プロのダンサーや大学生、ダウン症・自閉症の人々を対象にしたワークショップを随時開催し、今日に至る。

開催期日：H22.4.18 / 会場：鳥取大学アートプラザ

財源：地域貢献支援事業 / 主催：鳥取大学地域学部附属芸術文化センター・ダンスコング

参加者数（内訳）：1回目 52名 2回目 35名





プログラム

地球におけるバランスに関する一考察

作・構成:佐分利育代 演・ウエンズデーズキッズ ADM

音楽:上萬雅洋「電信柱の綱渡り」

そして …… が注がれる

作・演:ダンスコング

Transmitter

作・演:ジャッキー・ジョブ

ジャンボ

作・構成:佐分利育代、ジャッキー・ジョブ

演・ジャッキー・ジョブ ADM ダンスコング

★プログラム 宮本真梨那 佐分利育代 玉木 聡子

高田 朋樹 田添 幹雄 小山 裕加

舞台監督:三島麻美



ロンドンよりCanDoCoの創始者の一人であるアダム・ベンジャミンを講師に招き、県民を対象に障害のある人となない人が一緒に活動するダンスのワークショップを開催した。

参加者:

①住所 境港から岩美まで全県下及び、県外からの参加があった。

鳥取市15 鳥取市以外の東部1 倉吉市3 琴浦町1

境港市1 滋賀県1 岡山県1 埼玉県1 島根県1

②年齢 -10歳2 11-20歳2 21-30歳4 31-40歳5

41-50歳8 51-60歳2 61-70歳2

③25人中、知的障がい、身体障がい等、障がいのある人6人の参加も得た

成果:

鳥取市の国際交流員の通訳を得て、仕事のあった一人を除き最後まで活発に参加された。

これまでにアダム氏やその他のワークショップを受けた経験のある人、このようなワークショップを受けたいと思ってきた人には、思った通り、それ以上の評価であった。何があるのか分からない状態で参加された人も、「とても楽しかったです」とされていた。

情報源:

主催者から直接情報を得た参加者が半数以上であったが、友人の薦めで参加した人も1/4あった。アルテに大きく載せていただいたことも1人の参加者に繋がった。とりぎん文化会館の掲示板と合わせて、とりぎん文化会館も情報源になることが分かった。チラシは4人であったが、主催者が渡した情報もチラシであり、掲示板に貼った物もチラシであるところから、チラシは情報源であったと考えられる。

課題:

身体障がいの参加者は、聴覚と半身機能障害の二人であった。もっと多くの身体障がいの方の参加を得られるにはどうしたらいいか考えたい。ワークショップの継続を願う声も多いが、参加費を抑えているため、県の補助金と、参加費ではまかなえていない。ワークショップの性格上、参加者の人数はこれ以上増やせないので受講料の値上げも検討したい。受講料(一般3,000円と障がい者、学生以下1,500円)が安いとする人もあるので、可能かも知れない。



開催期日: H22.4.29 / 会場:とりぎん文化会館リハーサル室

財源:平成22年度県民自ら行う人権学習支援補助金

参加者数:25名





事業内容

2010年9月に開講する「ワークショップデザイナー育成プログラム」の受講生募集に先立ち、プログラムのカリキュラム内容や意義を紹介すると同時に、本プログラムが目指すワークショップデザイナー像を示し、ワークショップが体験できる機会を設けた。また、大学の事業や広報が東部に偏りがちであるので、米子を会場として実施した。

当日は、まず開催趣旨を説明した後、ゲスト講師蓮行氏(大阪大学特任講師・劇団衛星代表)、によるワー



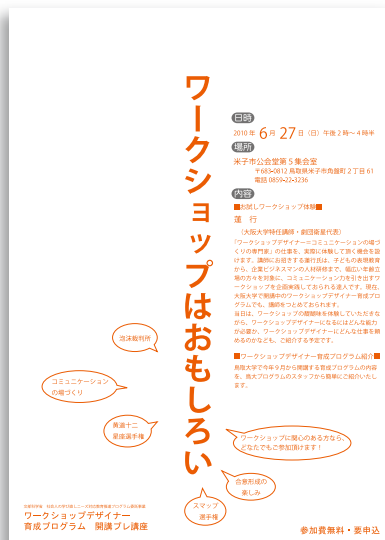
蓮行氏あいさつ

クショップを体験してもらいながら、それぞれの指示やアクティビティにどのような意図や成果があるのかを解説した。

蓮行氏のワークショップは、簡単なコミュニケーションゲームをいくつか体験してもらい、そののち、2グループに分かれてそれぞれある企画商品を売り込むプレゼンを相互に行い、全体を振り返るという内容であった。1時間半という短い時間で、ワークショップのおもしろさと同時に、企画運営しコミュニケーションを促すワークショップデザイナーの考え方や役割が示された。



企画プレゼン用のテーマを選ぶ参加者



その後、五島から、鳥大のワークショップデザイナー育成プログラムのカリキュラム内容や今後のスケジュールを説明、質疑応答を行った。

成果

新聞等でも広く告知し、当日は関心の高い16名の方が参加され、結果としてそのうち7名の方が、実際にワークショップデザイナー育成プログラムを受講された。広報として有効であった。



プレゼンの様子

開催期日: H22.6.27 / 会場: 米子市公会堂第5集会室

財源: 社会人の学び直しニーズ対応教育推進事業受託(文部科学省)

参加者数: 16名



ワークショップ
その他

五島 朋子



事業内容

鳥取大学出身で、現在ドイツのブレーメンで活動しているオーボエ奏者の松田素子さんと、その夫でファゴット奏者のマーティン・ヤーサー氏が、鳥取在住のピアニストである福田真衣さんと結成したトリオのコンサート。

なお鳥取大学からは、同コンサート担当者の新倉健と、大学院生である作曲家上萬雅洋とがこのトリオのために新しい作品を提供して初演を行なうほか、上萬が「七夕さま」などの編曲や司会を担当した。

また、「わらべ館」と「あおや和紙工房」のコンサートでは、松田、マーティン両氏による、子どもの入場者を対象としたオーボエとファゴットの楽器体験のワークショップ(写真参照)を実施したが、子どもたちのみならず、一般の入場者の積極的な参加もあり、大変好評であった。

7/17 鳥取生協病院



4回公演 開催期日／会場／参加人数(のべ360名)

①H22.7.7／わらべ館いべんとホール／200名 ②H22.7.11／あおや和紙工房／50名

③H22.7.17／鳥取生協病院レインボーホール／50名 ④H22.7.18／鳥取大学アートプラザ／60名



上演

制作・創作

ワークショップ

新倉

健

プログラムなど

2010年 7月7日(水) 18:30 鳥取わらべ館

G. F.ヘンデル: 水上の音楽より プレー

楽器紹介とオーボエとファゴットを実際に吹いてみようのコーナー

川崎さんと日本で有名なドイツの童謡と一緒に歌おう

C.TH.ラリエ:オーボエとファゴットとピアノのための3重奏曲 ヘ長調 作品 22より ロンド

新倉 健: 音の絵本IV スーホの白い馬

2010年 7月11日(日) 14時 あおや和紙工房

貝殻節/主よ、人の望みの喜びを/楽器紹介 /ドビュッシー: 夢

ラフマニノフ: ヴォカリーズ/上萬 雅洋: 降り積もる雪のように

新倉 健: スーホの白い馬より抜粋/新倉 健: 長持ち歌

上萬 雅洋: Lovers etc.

2010年 7月17日(土) 14時 鳥取生協病院

オーボエ奏者の松田素子さん、ファゴット奏者のマーティン・ヤーサーさん、ピアノ奏者の福田真衣さんの「Trio Tanabata(トリオ・たなばた)」のメンバーは、毎年国際色豊かに、ヨーロッパ音楽や鳥取市の新しい音楽の発信を行っているトリオです。このトリオに第4のメンバーである作曲家の上萬雅洋さんが加わり、1時間のコンサートは終始和やかに進みました。

2010 7月18日(日) 14時 鳥取大学 芸術文化センター アートプラザ

七夕さま/R.シューマン: アダージョとアレグロイ長調作品70

P.ヒンデミット: ファゴットとピアノのためのソナタ

上萬 雅洋: 降り積もる雪のように(新曲)/上萬 雅洋: Lovers 2

新倉 健: スーホの白い馬(新曲)

F. ブーランク: オーボエソナタ 作品 185

A.タンスマン: ファゴットとピアノのためのソナタ

C.TH.ラリエ:オーボエとファゴットとピアノのための3重奏曲 ヘ長調 作品 22



7/7 わらべ館いべんとホール



スーホの白い馬 演奏



楽器体験ワークショップ



木管演奏

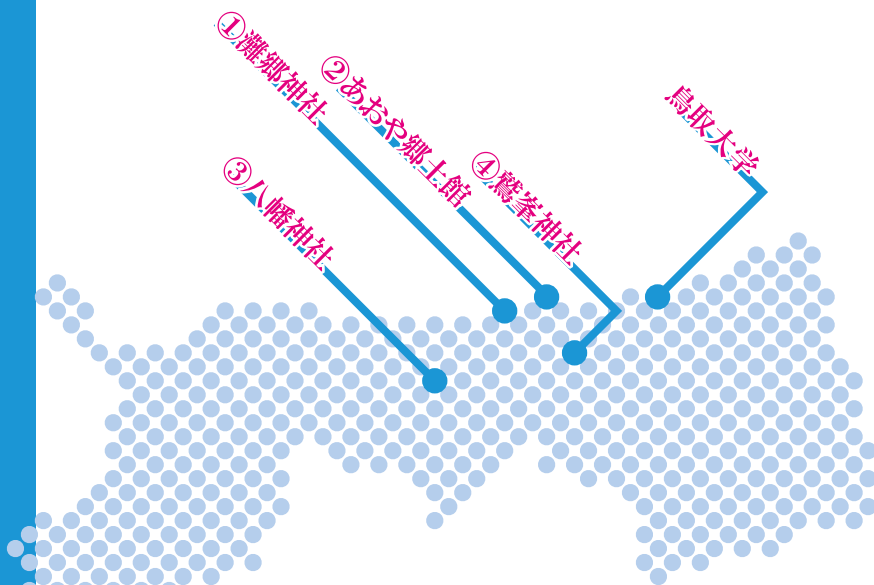
Trio TANABATA HP
http://www.trio-tanabata.com/jp_index.html



主催: Trio TANABATA 鳥取大学地域学部附属芸術文化センター 共催: わらべ館 あおや和紙工房 鳥取生協病院

財源: 鳥取大学地域貢献支援事業 芸術文化センター「アウト・リーチ・プロジェクト」

鳥取大学開放推進事業「鳥取大学サロンコンサート」



事業内容

ルート: 鳥取大学→灘郷神社→あおや郷土館→
→八幡神社→鷲峯神社→鳥取大学

幕末の因幡の国を中心に狛犬、灯籠など優れた石造作品を制作した、石工・川六(かわろく)の作品を川六ファンクラブ代表の青木清輝氏の案内と解説で見学するバスツアーを企画、運営した。鳥取大学を集合場所及び解散場所に指定した。事前に下見をし、ピックアップした灘郷神社、八幡神社、鷲峯神社等の狛犬を中心に見学した。(写真1・2)

あおや郷土館の森田学芸員より、あおや郷土館でツアー期間に川六の写真展を行っているとの連絡が入り、急遽、郷土館をルートに加えた。青谷町内の川六作品をほとんど写真展示されており(写真3)郷土館とも連携ができたタイムリーな企画であった。

成果

参加者は初めて実物を見る人が多く、江戸時代の名工川六の存在を広めることができた。また、ユニークな造形は解説により興味が深まったと好評であった。

野外彫刻の幅を広げることができた。

課題など

バスツアーの時間が限られているため訪れたい場所を限定せざるを得なかった。



1



2



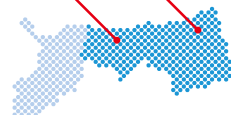
3



開催期日: H22.7.11 / 場所: ①灘合神社 ②青谷郷土館 ③八幡神社 ④鷲峯神社

財源: 鳥取大学地域貢献支援事業 とっとり「知の財産」活用推進事業

参加者数: 35名





事業内容

2日連続で、1日目は「Liederabend(歌曲の夕べ)」、「Kammermusikabend(室内楽の夕べ)」を開催した。1日目は、第一部にシューマンの歌曲、第二部にバッハ作曲の「コーヒーカンタータ」を字幕つきで上演した。2日目は、ドイツと鳥取を中心に活躍する新進気鋭の若手音楽家たちによる室内楽のプログラムを上演した。

成果

ドイツと鳥取で活躍する新進気鋭の若手音楽家を出演者として招き、質の高い音楽を観客に提供した。また、バッハ作曲の「コーヒーカンタータ」には字幕を付けて話の内容が分かるようにし、観客がクラシック音楽をより身近に感じられるよう配慮した。字幕つきの上演は反響が大きく、再演を望む声が多くあったため、2011年3月3日に鳥取市内のこぶし館、同年3月4日に鳥取市内のスイートカフェにて、学生企画で再演が行われた。さらに、今回の演奏会において、若手音楽家たちのネットワークが構築され、来年度からも継続し、鳥取での演奏会が企画されている。



【歌曲の夕べ】

小倉知子(ソプラノ)/北村保史(テノール)/
吉田章一・西岡千秋(バリトン)/西山真生
(ピアノ・チェンバロ)/西尾昌洋(フルート)/
荒井ゆうき・田中夏実(ヴァイオリン)/生原
幸太(ヴィオラ)/時本野歩(チェロ)

【室内楽の夕べ】

西尾昌洋(フルート)/生原幸太(ヴィオラ)/
時本野歩(チェロ)/西山真生(ピアノ)

Kaffeekanal BWV211
Kammermusikabend

開催期日: H22.7.28~29 / 会場: 鳥取大学アートプラザ

財源: センター施設運営費 / 室内楽の夕べ 主催: 「室内楽の夕べ」実行委員会

参加者数(内訳): 歌曲の夕べ 約120人 室内楽の夕べ 約80人



講演

上演

制作・創作

新倉

健

事業内容

米子市教育文化事業団が夏休み中に、主に子供たちや親子を対象として行なっているイベントで、第一部 ミニ・コンサート、第二部 星や宇宙に関する講演、第三部 朗読と音楽による音楽物語（映像入り）、最後に文化センターの前庭での望遠鏡による「星の観察会」があるというユニークな催しである。当日は第一部にチェロとピアノによるミニ・コンサート（チェロ：須々木竜紀 ピアノ：中橋芳恵）、第二部に映像を見ながら天の川など宇宙に関する講演。第三部に新倉健の作曲による音楽物語、「よだかの星」（作 宮沢賢治）を朗読とチェロ、ピアノで演奏した。朗読は「鳥の劇場」の中川玲奈が担当した。望遠鏡による天体観測会は残念なことに曇ってしまったために中止となった。



開催期日：H22.7.31 / 会場：米子市淀江文化センター「さなめホール」ロビー

財源：米子市教育文化事業団

主催：米子市淀江文化センター 協力：地域学部附属芸術文化センター / 参加者数：約200名



平成22年度 鳥取オペラ協会公演
モーツァルト作曲オペラ「フィガロの結婚」公演
(協力：鳥取大学地域学部附属芸術文化センター)

上演



Wolfgang Amadeus Mozart
Le Nozze Di
Figaro



事業内容

モーツァルト作曲のオペラ「フィガロの結婚」の全幕上演を、鳥取市民会館大ホールにて上演した。今回の上演は鳥取市民会館のリニューアルオープン事業であり、鳥取市と連携して企画・運営が進められた。センターの教員がプロデュース、副指揮、演奏・演技指導、出演などの支援を行った。

成果

前年度に引き続いた上演であり、さらに研鑽を積んだ出演者が指揮者と演出家の指導のもと、ブラッシュアップした作品を創りあげることができた。今回は鳥取市との連携事業であり、市報や地方新聞にも大きく取り上げられ、話題を呼んだ。当日の観客動員数は800名を越え、1階席、2階席ともに満席という盛況ぶりであった。

開催期日：H22.8.29 / 会場：鳥取市民会館大ホール

財源：鳥取県文化団体連合会 他
主催：鳥取オペラ協会・鳥取県文化団体連合会 後援：鳥取県・NPO法人アザレア文化フォーラム
参加者数：約800名

新倉 健

西岡 千秋

第8回とりアート (鳥取県総合芸術文化祭) 参加事業

受講生募集チラシ(県担当者作成)



うごきをかじる

〈かじってみる講座〉ではペットボトルを手がかりに色々な動きを見つけた。

参加後のアンケートでは参加者が講座内容に満足し、自分なりの発見や、楽しみを体験していた。

○ペットボトルを手がかりに一人で、ひとと関わって、いろいろな動きを創っていくのはとても楽しかったです。何かあるとこころが開きやすいですね。

○予想より楽しかった。生まれて初めての体験で、非常にリフレッシュしました。

○自分の表現したいことがまだまだ沢山あるなあと思いました。もっともっと動きたくなりました。

〈丸かじり講座〉では、かじってみる講座の内容をもとにペットボトルを手がかりとした作品「再び流れ出るまで」を創った。『ダンスポケット2010秋』(11月3日)にも発表した。

担当：佐分利

かじってみる一体験講座

H22.8.27(参加者：6名)

／とりぎん文化会館リハーサル室

まるかじりー継続講座

H22.10.1～22

／鳥取大学アートプラザ



かたちをかじる

体験講座では、粘土を素材に自由な作品をつくるカリキュラムと、人がふれあって楽しむことができる野外彫刻のひな形を作るカリキュラムを用意し、どちらかを選んでもらった。ほとんどの人が粘土で作る野外彫刻の造形に挑戦した。粘土の持つ可塑性のおもしろさを楽しんでもらえたようだ。

まるかじりコース当日はあいにく暴風雨になり休講も覚悟したが、熱心な受講者が複数訪れたので講座を開いた。テラコッタの自由作品をタタラ作りの技法を中心として制作するカリキュラムを用意した。数日間乾燥させ電気窯で焼成した。

二つのコースとも、皆さんが意欲的に取り組んでいた。

担当：石谷

かじってみる一体験講座

H22.9.3(参加者：8名)

／わらべ館イベントホール

まるかじりー継続講座

H22.10.8

／鳥取大学アートスペースII

それぞれの期日・会場は各報告参照

①かじってみる一体験講座(8.27～9.24の金曜) ②まるかじりー継続講座(10月の金曜)

③シェアリングH22.10.23／とりぎん文化会館リハーサル室





メロディーをかじる

今年度新設の講座である。地域の住民の作曲に対する興味・関心を高め、作曲活動への導入と裾野の拡大を目的とした作曲に関するワークショップ「メロディーをかじる」と、継続講座「メロディーまるかじり」を行なった。受講者が、作曲することの楽しさと面白さを感じ、作曲を通じて今後の生活を豊かにすることに多少とも貢献できたのではないかと思う。



<参加者の感想>

体験講座：自分で作曲できるとは意外で、感激しました。私は、今までに作曲など一度もしたことはなく、出来そうな気もしなかったのですが、作曲をされる方はどのようにして作曲をなさるのか、そのあたりを知りたくて参加しました。良い講座に参加できて、とても良かったです。

継続講座・シェアリング：先生のおかげで立派な曲にいただきました。とても有意義な時間でした。Sさんの美しい演奏を録音したので、朝、聞けて嬉しいです。

担当：新倉

かじってみる一体験講座

H22.9.10（参加者：15名）

／とりぎん文化会館リハーサル室

まるかじりー継続講座

H22.10.1および10.15

／鳥取大学アートスペースI



いろをかじる

昨年度と同じく、色紙を手でちぎって色彩構成をした。道具の使用を避けて自由に手でちぎる事で、直観によって色彩を扱えるような場の設定をこころがけた結果、細かい形の作り出しから解放されたために、色彩の効果を十分に体験する機会の提供ができたと思う。前回の経験から、ハサミを使わないで作品制作をすると制作の進み方が速くなることが分かったので、今回は作品のサイズを大きくした結果、迫力のある作品が完成できた。「シェアリング」では、平成20年度に行って好評であった、とりぎん文化会館内に設置されている芸術文化センターの掲示板に作品を展示し、受講者に自分の作品の説明をしていただいた。観客数が多くて通路を塞いでしまい、会館を訪れる一般の方々の通行を一時的に妨げてしまった。それでも、多くの視線が注がれる中で行われた受講者の作品説明が熱をおびていた事を考えれば、場所の設定は良かったと思う。



担当：平井

かじってみる一体験講座

H22.9.17（参加者：9名）

／わらべ館イベントホール

まるかじりー継続講座

H22.10.22

／鳥取大学アートスペースIII



ハーモニーをかじる

今年度は、受講者が少なかったため、各自のレベルに合わせた個人指導も取り入れた。中学生、高校生の参加もあり、受講者の年齢層が広がった。

1) 体験講座

<曲目>岡野貞一作曲「もみじ」／草川信作曲「夕焼け小焼け」／中田喜直作曲「小さい秋みつけた」／フランス古曲「おちば」を輪唱する／木下牧子作曲「誰かが小さなベルをおす」

2) 継続講座「ハーモニー丸かじり」

木下牧子作曲「誰かが小さなベルをおす」／ロマンチストの豚」／寺島尚彦作曲「おやすみ雪だるま」

<受講者の声>

○いろいろな年代の方と一緒に歌え楽しかった。○楽しく歌を習いながら、発声法や知識をたくさん学べた。○また機会があれば、参加したいです。(高校生)○1回の講習時間ならびに、受講回数ももう少しあると、シェアリングの時に自信が持てた。○時間帯が重なっている講座(継続講座)は、両方受講出来ないのが片方を諦めなければいけなかったのが残念でした。(体験講座は、両方受けられたのでとても心残りです)

担当：西岡

かじってみる一体験講座

H22.9.24（参加者：19名）

／とりぎん文化会館リハーサル室

まるかじりー継続講座

H22.10.1～22

／鳥取大学アートプラザ

事業内容

青山学院大学と大阪大学の共同事業「ワークショップデザイナー育成プログラム」という社会人向けの特別課程を、協力実践校として鳥取大学で開講した。「ワークショップ(以降WS)」は、ここでは「参加型体験活動」すなわち、「一方的に講師や指導者が知識を伝達するスタイルではなく、参加者が自ら参加・体験して、共同で何かを学び合ったり、創り出したりする学びと創造のスタイル」である。このような「参加型の学び」では、参加者間の異文化理解や合意形成のためのコミュニケーションを促進する考え方や技術が必要であり、それらを実践的に学ぶ講座として開講した。

受講料8万円、4ヶ月で120時間の授業という高いハードルであったが、定員を大きく上回る応募があり、26名が受講した。鳥取県内各地の他、松江市や出雲市からの受講生もあり、また年齢は10代から50代まで、職業も教員、医師、文化財団職員、一般企業社員、フリーター、コンサルタント、刑務官の方など、多様であった。

育成プログラムは、3分の1はインターネットを利用したeラーニングによる自宅受講で、残りはWSの研修や実習を繰り返しながら実践的に学ぶ。実践の前半は、まちづくりや環境学習を素材にし、智頭街道商店街組合の協力を得て、「子供が遊びながら町を知る」を課題に受講生がWSを企画実施した。後半は、鹿野町を拠点に活動するNPO法人「鳥の劇場」の事業「劇場でアートを学ぼう！」と連携し、アーティストと一緒に実施するWSの企画運営を学ぶ機会とした。地域の現場で、実際のWSを通してWSを学ぶという2重のしかけである。1月末に最終課題を提出し、26名全員が履修を無事終えた。

成果

- ・地方都市にもワークショップデザイナーへのニーズが確実に存在することを顕在化させた
- ・現在準備できる資源(人材、環境)を最大限に活用して、具体的な現場と密な連携を取った実践的で充実した内容の講座を、コンパクトな期間で受講生に提供できた
- ・多様な関心とキャリアの、高いモチベーションを持つ人材を掘り起こし、ネットワーク化できた
- ・修了生のネットワークを用いて、様々なワークショップを企画、運営する機運が高まっている

継続開講についての課題

- ・講座受講についてさらなる需要があるかどうか
- ・大学教育との連携が必要
- ・講座実施の運営体制の拡充が必要

【演習科目1】

日時: 年 月 日(曜日)開始時間～終了時間

場 所:

講 師: 名前(所属など)

●内容

プログラムの内容

基礎コース

【演習科目1】

2010年10月2日(土)10時～17時

鳥取大学教育センター別館

加留部貴行(九州大学大学院特任准教授・

(特活)日本ファシリテーション協会フェロー)

●ワークショップ概論。コミュニケーションの場づくりとしてのワークショップ、場を動かす機能としてのファシリテーションについて、概要をつかみ、効果的な会議運営・ミニWSを体験する。



【演習科目2】

2010年10月3日(日)10時～17時

鳥取大学教育センター別館

荻宿俊文(青山学院大学教授)

●ワークショップデザイナーとして知っておくべき基本理論を、社会学的アプローチや教育学的アプローチから、WS体験を交えながら学ぶ。



デザインコース・ユニット1

【演習科目1】

2010年10月11日(月・祝)10時～17時

遷喬地区公民館

齋藤 啓子(武蔵野美術大学教授)

ゲスト 常村護(智頭街道商店街振興組合)

森下章(五臓園薬局)

●まちづくりにおけるワークショップの意義と役割を学び、実習と同じフィールドで、街を歩いて魅力を発見するWSを体験する。



【演習科目2】

2010年10月23日(土)10時～17時

鳥取大学教育センター別館

林桂子(セレン環境教育事務所代表)

●子どもと環境学習におけるワークショップの意義と役割を学び手法を体験し、実習へ向けたワークショップの企画を検討する。



開催期間: H22.9.5～H23.1.26 / 会場: 鳥取大学 他

財源: 社会人の学び直しニーズ対応教育推進事業受託(文部科学省)及び受講料

受講生: 26名



【研修科目1】

2010年10月24日(日)10時～17時
鳥取市文化センター2階大会議室
平田オリザ(劇作家・演出家・大阪大学教授)
●演劇の手法を用いたコミュニケーションワークショップについて体験する。



【実習科目1】

2010年11月14日(日)9時～18時
遷喬地区公民館

●学童保育指導者、こども、親子劇場関係者などを対象に、「まちの魅力を楽しく探す」ことを目的として、受講生が組み立てたワークショップを実施し、実践力を養う。



【研修科目2】

2010年11月20日(土)11時～19時
鳥の劇場
T*O(タカマスヨシコ・おくやめぐみ)(建築家)
●建築家による小中学生向けの「建築と空間のワークショップ」を見学・体験する。



【演習科目3】

2010年11月21日(日)9時30分～18時
鳥の劇場
門脇哲也(カタチトチカラ建築設計事務所代表)
●建築家による小中学生向けのワークショップ「マイドームをつくろう!」を体験し、講師と一緒に、ワークショップの運営を経験する。



【演習科目4】+【実習科目2】

2010年11月27日(土)・28日(日)9時～19時
鳥の劇場
服部かつゆき(ビデオアーティスト)
佐藤博昭(教員ビデオ作家)
●ビデオアーティストによる小中学生向けのワークショップを一緒に企画し実践する。



【研修科目1】

2010年12月5日(日)10時～17時
鳥の劇場
中島諒人(演出家・NPO法人鳥の劇場代表理事) 吉野さつき(ワークショップコーディネーター)
●WSを恒常的にを行っている組織の運営を知る。また、WSデザイナーの仕事や活動について知る。



【研修科目2】

2010年12月18日(土)10時～17時
鳥取大学教育センター別館1階
蓮行(劇団衛星代表 大阪大学特任講師)
吉田まりえ(九州の暮らし創造研究所代表)
ゲスト 樋口貞幸氏(NPO法人アートNPO) **シンカ**
●ワークショップの企画を売り込むことを前提に、収支計画や評価も踏まえて、グループで企画をたてる。



【演習科目】

2010年12月19日(日)10時～16時
鳥取大学教育センター別館1階
蓮行 吉田まりえ
ゲスト 林桂子 森下章 樋口貞幸
●WS企画のプレゼンと評価を行う。また、プログラム全体を振り返り、WSDとしての自分の姿を構想する。



受講生一同



財団法人鳥取市文化財団10周年記念事業 仁風閣の樹下美人―石谷孝二 加彩テラコッタ展―

講演

展示

制作・創作

ワークショップ

新倉 健
石谷 孝二

120



「花の譜」(写真撮影:水本 俊也)



「赤い花」(写真撮影:水本 俊也)

事業内容

仁風閣は重要文化財指定のフランスルネサンス様式を基調とした白亜の明治建築である。館内では鳥取・池田家ゆかりの品々等を展示し、一般公開されている。今回の彫刻作品は女性胸像10点(高さ約45cm)のほか鳥、花、月などの立体作品総数約20点のオリジナル新作テラコッタ作品で現代の樹下美人像のイメージを演出した。素焼きに淡い彩色(加彩)を施すことで潇洒な館内内部との親和性をはかり、粘土の持つやわらかい味のある具象像によって魅力的で新鮮な空間を作り出すことを目指した。オープニングではビオラ奏者の眞家利恵氏の演奏があり、展示会場内に新倉健教授作曲の現代音楽「樹下」が流れ造形と音楽のコラボレーションによる新しい仁風閣の展示を示すことができた。

開催期日・期間:展示H22.10.1~17 ギャラリートークH22.10.1 レクチャーH22.10.10

会場:鳥取市東町2丁目121 国指定重要文化財 仁風閣

参加者数:3,200名





「木漏れ日」(写真撮影:水本 俊也)



上:オープニング ヴィオラ演奏(眞家利恵氏) 下:ギャラリートーク

レクチャーについて

個展(仁風閣の樹下美人 石谷孝二加彩テラコッタ展)の会場にて作者による粘土の公開制作を行った。

- 1.花を作る
- 2.手を作る
- 3.トルソを作る

という三つのテーマを設け、信楽粘土を用いて制作の意図、技法等を説明しながらレクチャーした。粘土の持つ魅力について実制作を通して伝えることができた。



レクチャーの様子

成果

「場」の持つ新たな魅力を引き出すインスタレーション的手法の展示を実現することにより、仁風閣の文化的資源の新たな付加価値を提案できた。また、その活用を図り地域住民及び観光客等に鳥取ならではの美術鑑賞の機会を提供することができた。

ギャラリートーク、製作実演等によりテラコッタの魅力を分かりやすく鑑賞者に伝えることができた。広報を充実させることによりテラコッタ彫刻作品を通じた美的価値の発見やふだん仁風閣にあまり訪れたことのない観客の掘り起こしを行い芸術文化の振興に資することができた。



「久松山の月」(写真撮影:水本 俊也)



財源:財団法人 鳥取市文化財団 鳥取大学地域貢献支援事業(レクチャー)

主催:国指定重要文化財 仁風閣 財団法人 鳥取市文化財団

共催:鳥取大学地域学部附属芸術文化センター

平成22年度(2010年)のアートフォーラムの講演会「やなぎみわ講演会」のポスターおよびチラシのデザインを行った。基本デザインの2点の方針を守りながらデザインしたが、現代芸術家として注目されている講演者から送られてきた写真自体が美術作品であるため、写真をトリミングして使いやすいサイズに変更することが出来なかった。



■老いをテーマにして創作活動を行っている講演者やなぎみわ氏から送られてきた写真は写真自体が美術作品であるためにトリミングして使いやすいサイズに変更することは事前に拒否されていた。そのため基本デザイン1を守るために講演者の了解を得たうえで、作品写真の勢いが失われないように工夫しつつ、写真の上にタイトル文字を乗せることとした。

■講演者から送られてきた2枚の作品写真のうち一枚は刺激的な画像であったために、念のためメインとしては使わずにサブとして使用することとしたが、筆者としては使用してみたかった。



■湯村光氏の講演会のポスターは、主になる写真が縦位置であったために基本デザイン1を守るのに苦慮した。その結果、タイトル文字「湯村光講演会」を上下の中央の位置から画面の上に移動させることで解決させた。



開催期日：H22.11.7 H23.2.20

その他詳細については該当事業のページを参照

制作・創作

平井 覚



2010

강원 차세대음악회 및 일본 돗토리현 오페라단 초청공연

일 시 2010년 10월 18일(월) 19:30

장 소 춘천문화예술회관

주 최 강원도예술문화단체총연합회

주 관 강원도음악협회

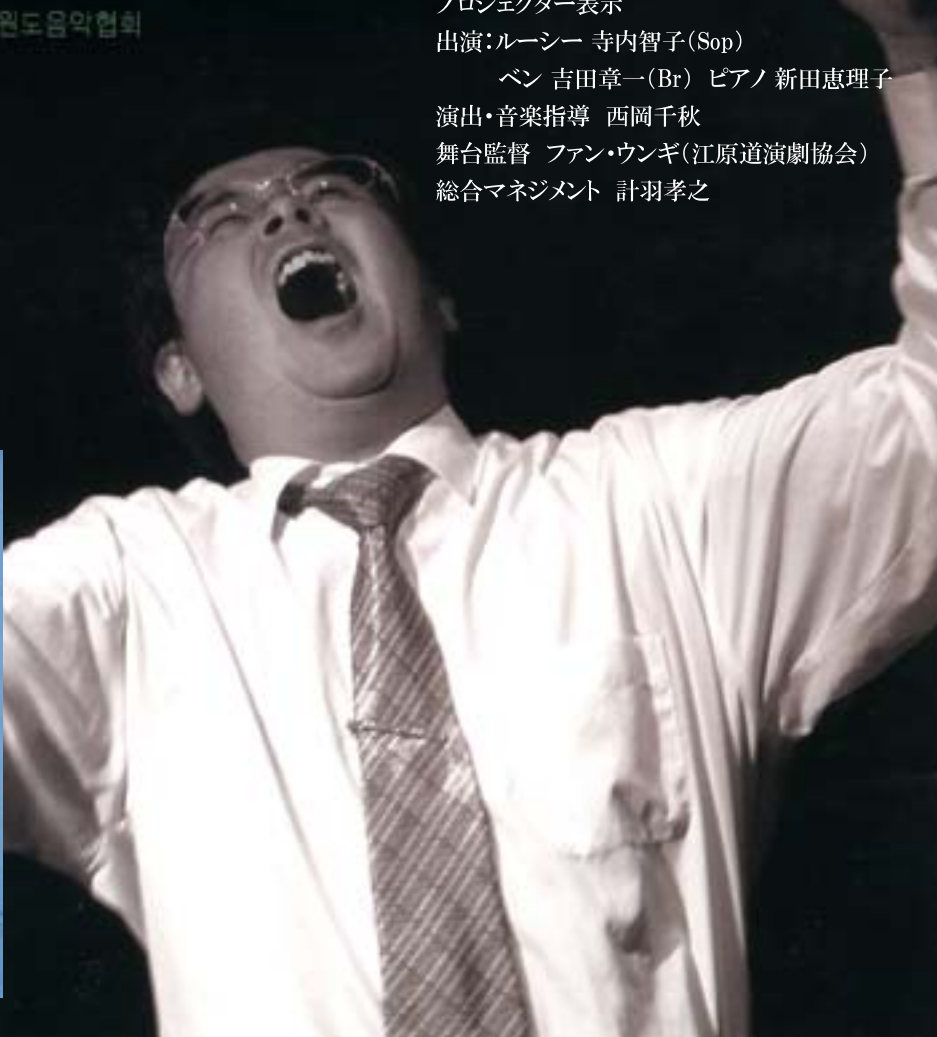


事業内容

鳥取県と韓国江原道のオペラ交流を目的とし、お互いの音楽活動の活性化と質的向上を求めた事業である。この事業は、長期的展望を持った音楽芸術の協働を通しての公演であり、今後に繋がる第一歩と位置づけられる。2010年10月18日(月)開催の第48回江原芸術行事「次世代音楽会」に特別共演として、室内オペラ「電話」(メノッティ作曲)を上演した。

上演内容

メノッティ作曲「電話」日本語上演
ピアノ伴奏バージョン
字幕スーパー(韓国語)をパワーポイントで
プロジェクター表示
出演:ルーシー 寺内智子(Sop)
ベン 吉田章一(Br) ピアノ 新田恵理子
演出・音楽指導 西岡千秋
舞台監督 ファン・ウンギ(江原道演劇協会)
総合マネジメント 計羽孝之



鳥取オペラ協会・韓国江原道芸術文化団体総連合との親善交流
メノッティ作曲オペラ「電話」公演
(演出・鳥取大学地域学部附属芸術文化センター 西岡千秋)

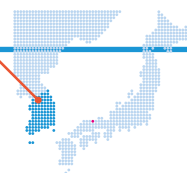
上演

西岡
千秋

開催期日: H22.10.18 / 会場: 韓国江原道春川市春川文化芸術館

財源: 鳥取県文化団体連合会、鳥取オペラ協会 他

主催: 韓国江原道芸術文化団体総連合会 主管: 韓国江原道音楽協会 / 参加者数: 約250名



123

事業内容

未来を担う子どもたちに、身近に音楽の美しさや面白さを味わう機会を提供し、子供たちの芸術文化への興味と関心を高めるとともに、将来の音楽文化を支える人材を育成することを目的として、「芸術文化センター アウトリーチ・プロジェクト」として、地域貢献支援事業の助成を得て実施したものである。このプロジェクトでは鳥取生協病院、わらべ館、あおや和紙工房などの学校や文化施設に出向いて「出前コンサート」を実施したが、音の絵本「スーホの白い馬」のコンサートは、下記の2会場で公演した。

音の絵本コンサート スーホの白い馬

①平成22年11月2日(火)13:00開演 於:鳥取盲学校体育館(約100名)

朗読:中川玲奈 ヴァイオリン:真家利恵

チェロ:須々木竜紀 ピアノ:中橋芳恵

②平成23年1月29日(日)14:00開演 於:米子ふれあいの里(約200名)

朗読と歌:吉田章一 ヴァイオリン:真家利恵

チェロ:須々木竜紀 ピアノ:中橋芳恵

「音の絵本」は、朗読と音楽による子どものためのコンサートである。子どもが楽しみながら音楽や本(読書)への興味と関心を持ち、その導入になるとともに、上演に敢えて絵や映像を使わないことで、子供たちの想像する力を育むことを目的としている。

第一回の盲学校での公演は鳥取盲学校の図書館祭との共催であり、第二回目の米子ふれあいの里での公演は、米子こども劇場との共催である。



(感想)

・マイクがないのに声が大きかったのでビックリ 小1

・スーホは読んだことがあったのに、忘れていました。馬とスーホはずーと一緒だけど、本当はいっしょに草原を走り回っていたと思った。

・音の絵本がわが子3歳にはまだ小さくて、いつもの読み聞かせと違い、「絵本はまだ？」と何度も聞いていました。母は生の演奏とすばらしい歌声にモンゴルの草原をイメージし、最後は涙がこみ上りあげてきました。30代 母

【主な演奏曲目】

タイスの瞑想曲(マスネ)

チャルダシュ(モンティ)

主よ人の望みの喜びを(J.S.バッハ)

ラ・クンパルシータ(ロドリゲス)

サウンド・オブ・ミュージック(ロジャース)

魔王(シューベルト)

もう飛ぶまいぞこの蝶々(モーツァルト)

音の絵本IVスーホの白い馬(新倉健)

・入り口が前だけで小さい子が出たり入ったり。雪のため長靴で音も響き、演奏しにくかったのでは。久しぶりに間近で生の演奏を聴かせていただき、ありがとうございました。絵本が音にのってスーホの世界、モンゴルの雄大さを感じました。馬頭琴を聴きたくなりました。

・スーホで、目の前に絵が浮かんで涙が出ました。もっと長く聴きたかった。とてもぜいたくなコンサートだった。

・素晴らしかった。上の子も連れてくればよかった。小さな子の心にもきっと何か残ったと思うコンサートだった。

開催期日:①H22.11.2 ②H23.1.29 /会場:①鳥取県立鳥取盲学校 ②米子ふれあいの里

財源:鳥取大学地域貢献支援事業 鳥取盲学校 / ①主催:鳥取盲学校 ②主催:米子こども劇場
①②共催:地域学部附属芸術文化センター
参加者数:①約100名 ②約200名





(写真撮影: ㈱大阪フォトサービス)

プロのダンサーの指導を受けること、一緒に上演すること、その作品を鳥取市民に観ていただくことは、ダンスの魅力を広く知っていただけると同時に、出演者に新たなダンスの体験と経歴を与える。

また、プロのダンサーにも、出演している様々な人々たちによるダンスの「原点」とも言える作品に接する楽しさを味わっていただけたとお聞きした。

上演に欠かせない照明を、地元の照明家に委託している。舞台芸術に関わる様々な分野のプロの育成は、芸術そのものの発展にも繋がる。都会からの技術者ではなく、共に進歩することを願って、地元の照明家との作品づくりを今回も試みた。

音響、舞台等は、会館のスタッフの手助けで、学生のボランティアをお願いした。舞台用技術のプロの育成、需要等課題を感じている。

公演に関する観客アンケート調査を行ったが、回答数は22と少なかった。回答のタイミングをつくることができなかったのと、自由記述が多く回答しにくかったことが、原因と思われる。回答いただいたものでは、各作品に個性があつて、会全体が良かったとの印象が多くあった。プロの作品の迫力、訴える力への関心、参加グループの作品の進歩を書いてくださるもの等作品それぞれへの感想もいただいた。

プログラム

1部

1. ひととはひとのなか 作・ダンスコング 加藤朋子 演・ダンスコング・ADM
2. オブラディ・オブラダ 鳥取大学附属幼稚園
3. 砂・まぼろし・輝き 星のいり口
4. 夏どろぼう 鳥取大学舞踊芸術創造Ⅱ受講生
5. 真夜中のおもちや箱 鳥取大学附属特別支援学校「レッツダンス」部リズムミック
6. ふりむいてキラ☆ 城北ストレッチリズムダンス
7. 再び流れ出るまで 芸術をかじってみませんか受講生
8. み・ず・のはら M&Aマエカワ
9. 一粒の中の永遠 作・三島 麻美 演・三島麻美 田中悦子

2部

- エッジ edge 作・大樹 JOU 音楽・演奏: 松本充明
 演・大樹、JOU、鳥取ダンス連
 (ダンスコング・ADM・鳥取大学ダンス部)



開催期日: H22.11.3 / 会場: とりぎん文化会館小ホール

鳥取市民文化祭参加 第8回とりアート参加事業 / 財源: ごうぎん鳥取文化振興財団助成事業

参加者数: 出演者 135名、観客 約250名

上演

佐分利育代



事業内容

場所: 倉吉交流プラザ(生涯学習センター第1研修室)

講師: 湯村光(彫刻家)

倉吉出身の彫刻科・湯村光氏の講演会を中部地域の倉吉市で行なった。湯村氏の作品は主に御影石を用いて制作されている。スライドで石を割る場面や磨き再構成する様子を示しながらの講演は全国の公共空間に設置されている氏の石彫の成り立ちを考える上でも興味が尽きないものであった。



1



2



3

成果

会場の入場者からは質問や意見が多く出され、彫刻と環境のあり方について活発な意見が出された。

中部の倉吉を会場に選んだため、事業の範囲を広げることができた。また、倉吉博物館の共催を得て、広報活動に連携が取れた。また、当日もサポートして頂いた。



写真はいずれも湯村光氏の作品集より
上: 石の響

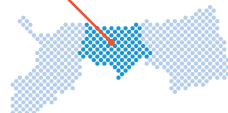
1. 起源
2. 「KURAYOSHI」
3. 「地象」



開催期日: H22.11.7 / 会場: 倉吉交流プラザ生涯学習センター第1研修室(倉吉市)

財源: 鳥取大学地域貢献事業 平成22年度とっとり「知の財産」活用推進事業

共催: 倉吉博物館 / 参加者数: 40名





事業内容

鳥取県文化振興財団の、ARTS FOR EVERYONE 創造への扉 「音楽の絵本」リピーター育成事業で、子供・親子を対象としたワークショップを実施したいとの依頼により、芸術文化センターの西岡千秋、大学院及び学部学生、鳥取オペラ協会のメンバーなどが制作し、平成21年度に文化庁の助成を得て、県内の幼稚園や小学校で上演してきた「ヘンゼルとグレーテル」を中心にしてプログラムを構成した。

- ①「みんなで歌おう」とミニコンサート(ヴィオラ独奏:眞家利恵、バリトン独唱:西岡千秋、ピアノ:瀬川則子)
- ②ブレーメンの音楽隊の絵本を素材として、リズムに合わせて動物たちの鳴き声を作り、行進曲に合わせて鳴きまねをして遊ぶというワークショップ(ワークショップリーダー:新倉健、上萬雅洋)
- ③オペラ「ヘンゼルとグレーテル(子供のための抜粋版)」の上演を行った。

【キャスト】

ヘンゼル:駒原友美
グレーテル:小倉知子
魔女・母親:鶴崎千晴
お父さん:西岡千秋
老ヘンゼル:上萬雅洋

【スタッフ】

ヴィオラ:眞家利恵
ピアノ:瀬川則子
指揮:新倉 健
舞台監督:橋本知明
照明:オハラ企画



開催期日: H22.11.13 / 会場: 鳥取産業体育館 小体育館

財源: 鳥取県文化振興財団 / 主催: 鳥取県文化振興財団 協力: 地域学部附属芸術文化センター

参加者数: 50名





事業内容

地域住民が、気軽に鳥取大学に足を運び、学生や教職員とともに、芸術文化に親しむ機会をつくることを目的として、親しみやすく質の高いコンサートを制作し、鳥取大学開放推進事業「鳥取大学サロンコンサート」としてアートプラザにおいて開催した。なお、当初予定していた「笛・古今東西」は、演奏者の都合により実現できなかったため、代替としてヴァイオリンとハープによるイクサの演奏会などを実施した。

コンサートは、辺見康孝による楽しいトークによる解説があり、サロンコンサートらしい良い雰囲気の中でコンサートが進行した。また、ふだんあまり身近に接して見たり音を味わったりする機会の少ないハープについても間近で見ながらお話を聴くことが出来たということで、たいへん好評であった。

X [iksa] Live in 鳥取大学

〈日時・会場〉2010年11月16日(火)18:30開演

於：鳥取大学アートプラザ

〈出演者〉ヴァイオリン：辺見康孝、ハープ：松村多嘉代

〈演奏曲目〉クライスラー：愛の喜び

チャイコフスキー：カンツォネッタ

シューマン：トロイメライ

ショパン：幻想即興曲、革命のエチュード

新倉 健：歌の祭り(ヴァイオリン・ソロ)

細川俊夫：二つの日本民謡(ハープ・ソロ)

久石 譲：もののけ姫

モンティ：チャールダーシュ

開催期日：H22.11.16／会場：鳥取大学アートプラザ

財源：鳥取大学開放推進事業／主催：鳥取大学地域学部附属芸術文化センター

参加者数：約80名

アンケートより

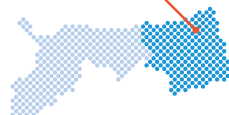
①とても良かったです。ハープとヴァイオリンの音色がきれいで、うっとりしたところや血がぞくぞくするようなところが良かったです。またコンサートがあったら好きみたいです(10代男)。

②ハープがこんなに間近で聴けて、感激でした。(中略)素晴らしい曲の数々有難う、また聴かせて下さい(60代女)。

③ハープという楽器についてのトーク、興味深く聞かせていただいてから、「ハープという楽器は不思議な感じがなんだなあ。」と思いはじめました(後略、50代女)。

④無料でプロの演奏が聴けるのは、私のような貧乏人にとっては、とてもありがたいことです。これからも地域の方がたに、素敵な音楽を提供し続けていってください(後略、50代、男)。

⑤本当に、本当に感激しました!ずっと聴いていたい、本当にそう感じました。ヴァイオリンとハープの綺麗な音色の中に面白さがあって聴き入り、見入りました!!本当にありがとうございました。もっと、こういったコンサートをして頂けたら嬉しいです!ありがとうございました!(20代、学生)。



事業内容

産業構造の転換等により、衰退を余儀なくされた企業城下町の商店街において、空きビルを劇場として活用しながら、地域活性化にも貢献する活動を始めている劇団がある。主宰者の市原幹也氏を招いて紹介した。

「鉄の町」として日本の近代化を担ってきた北九州市の枝光商店街で、劇団「のこされ劇場」が2009年より、銀行として使われていたビルを「アイアンシアター」と名づけ、劇場として活用している。活用にあたっては、かつてのにぎわいを懐かしむ地域住民の活動団体「北九州お手軽劇場」と連携し、劇団の創造活動と地域活性化のための活動が齟齬を来さず進むよう工夫されている。また、地域外から来た劇団員たちも商店街になじむよう清掃活動を行ったり、演劇公演来場者の商店街回遊を促そうと商店街での買い物と演劇チケットの連携をはかるなど、地域の課題解決と劇場活動が結びつくよう取り組まれている。主宰の市原氏は、20代と若く、これからの活動が期待される。

成果

芸術活動を通じて地域課題の解決に取り組もうとする、他地域での若い世代の考えや実践について、身近な生の声として聞く機会を設けることができた。



北九州市八幡東区の枝光商店街



商店街の中で行われた演劇公演の様子(2010年10月末)



「アイアンシアター」の前で。市原氏と客演女優。

開催期日：H22.11.29 / 会場：鳥取大学地域学部附属芸術文化センター センター長室

財源：芸術文化センター運営経費

参加者数：14名



事業内容

湖山池を身近に感じ楽しむためのアートイベント。
昨年に引き続き鳥取大学地域貢献支援事業（事業代表者、鳥取大学地域学部地域教育学科教授、住川英明）の助成を得て、今年度は会場を鳥取大学から市内の「パレットとっとり」に移して実施した。

12月1日から5日の期間中に、ワークショップ、講演、展示、音楽と書のコラボレーションなど、多彩な内容となった。芸術文化センターの新倉はコラボレーションの音楽監督を担当し、作曲家で大学院生の上萬雅洋がサポートを担当した。また、全体の会場レイアウトはデザイナーの横山味地子が担当した。



12月1日：
小学生の書のワークショップ「ねえ、湖山池」。
テーマ：湖山池につぶやく



12月2日：
市民の書のワークショップ「お～い、湖山池」。
テーマ：湖山池に叫ぶ



12月4日：
講演：「湖山池がジオパークになった」
講師：西田良平
（放送大学鳥取学習センター所長、
鳥取大学名誉教授）



12月5日：
書とヴィオラの即興コラボ！ 住川英明&辺見康孝
あなたの音と即興コラボ！ 辺見康孝



12月3日：
ワークショップで完成した書の展示
（4日、5日を通して展示）



開催期間：H22.12.1～5 / 会場：パレットとっとり市民交流ホール

財源：鳥取大学地域貢献支援事業 / 主催：湖山池・水のことはプロジェクト実行委員会 後援：鳥取大学
参加者数（内訳）：ワークショップ1（於：小学校）64名 ワークショップ2（於：パレットとっとり）51名
講演会 30名 即興コラボレーション 68名 展示 134名 合計：347名



講演

上演

展示

制作・創作

ワークショップ

新倉

健



蓮行氏・紙本氏によるレクチャー

参加者との対話で進められたワークショップ



事業内容

京都の劇団衛星によるお茶会演劇「珠光の庵」の講演に合わせて劇団代表の蓮行氏、劇団員の紙本明子氏によるレクチャー & ワークショップを行なった。なぜ演劇の専門家である蓮行氏が、茶道をモチーフに選び、等しい融合をはかろうとしたのか。「お茶会演劇」に取り組む、演出家・蓮行氏の視点を起点に、「越境・融合・共生」という現代社会のキーワードに迫るヒントをめぐって展開した。石谷が司会を担当し、会場からの質問に答えながら実演を交える形式をとった。出席者の多くがその後演じられた劇団衛星のお茶会演劇「珠光の庵」を鑑賞した。

成果

お茶会演劇「珠光の庵」を参加者の多くが鑑賞したので、内容の理解が深まった。新しい小演劇集団の多面的な活動の様子がわかり、演劇の可能性を知ることができた。

課題など

レクチャー&ワークショップと銘打っていたがワークショップの時間があまり多くとることができなかった。

演劇の開演時間との関係で当初予定の時間が短くなってしまい内容を掘り下げる時間があまり取れなかった。



開催期日：H22.12.17 / 会場：鳥取大学アートプラザ

財源：鳥取大学地域貢献支援事業 / 主催：鳥取大学地域学部附属芸術文化センター

参加者数：30名



事業内容

京都を拠点に活動する劇団衛星による「珠光の庵」をアートプラザで上演した。劇団衛星は、「小劇場での演劇でしか絶対に表現できない舞台表現」を極めることをめざし、1995年に設立され、現在専業演劇人集団として、演劇創造及び学校・企業等での演劇ワークショップ等での経営を実践している。

「珠光の庵」は、室町時代の茶人村田珠光を題材に、彼が侘び茶を完成させるにいたる経緯を、虚々実々のユーモアを交えつつ描き出す。劇中では、観客にもお抹茶とお菓子が振る舞われ、観客も舞台の登場人物として参加するユニークな形式である。アートプラザに、畳敷き和室風の舞台を会場に設営し、30席限定の公演として実施した。

成果

30席限定であったが、2回とも35名の観客を得て上演することができた。鳥取では、観劇機会の少ない「小劇場」による公演であり、大学内での上演であったため、舞台に接する機会のない学生にも足を運びやすい敷居の低い公演となった。また、アートプラザの空間を、これまでと違った形で舞台化する試みともなった。



(写真提供：劇団衛星)

上演作品データ

出演 ファックジャパン 紙本明子 黒木陽子
 進行 首藤慎二 宮嶋ユオリ 筒井彰浩
 作・演出 蓮行
 茶道監修 十菱元宏 井上英子
 舞台監督 渡川知彦
 制作 植村純子 楠海緒
 協力 茶道裏千家家元千宗室
 NPO法人フリンジシアタープロジェクト



開催期日：H22.12.17～18 / 会場：鳥取大学アートプラザ

主催：「珠光の庵」公演実行委員会 共催：鳥取大学地域学部附属芸術文化センター

参加者数：17日・18日とも35人 合計70人





事業内容

小学生にとって、面白く、親しみやすいオペラを制作し、琴浦町立以西小学校(会場はカウベルホール)、鳥取大学附属小学校で実施した。制作・上演したオペラはフンパーディンク作曲「ヘンゼルとグレーテル(抜粋版)」である。小学校低学年向けに縮小・抜粋したもので、脚本と編曲は鳥取オペラ協会の育成部によるものを上演した。始めと終わりの部分で、子ども達が参加して踊る場面を設定したり、魔女の呪文に学校名を加えて、子ども達が主人公と一緒にオペラの世界を創っていくことを重要視した。

まとめ

本事業は昨年度、文化庁からの委託を受けて実施した「創造のまち支援事業」を継続して行ったものである。昨年度の反省を踏まえながら上演形態の見直しを行い、楽譜の改訂版を作成するなど、より子どもたちがオペラを身近に感じ、楽しめるよう配慮を行った。今回の上演は2箇所の小学校で行ったが、どちらの学校でも参加型のオペラ上演が好評であり、演奏者と観客が一緒にオペラを創るという喜びを、子どもたちが味わうことができたのではないだろうか。

また、今回はオペラの上演だけでなく、バックステージツアーやオペラアリアのミニ講座も行った。普段見ることのできないオペラの裏側を見たり、実際にオペラの曲を歌うことで、オペラの実体験を提供することができたと考えられる。

さらに、今回の継続事業において、学生らの成長も見られた。昨年からそれぞれヘンゼル役、指揮者、楽器演奏に携わった学生たちの技術・表現力の向上が見られ、今後の彼らの活動にも大きく役立っていくと思われる。

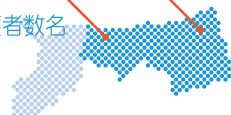
今回は小学校公演が2回であったが、他の小学校からの上演希望が多く寄せられており、より多くの子どもたちにオペラ鑑賞の機会を提供していくことができれば、と考えている。



出演:ヘンゼル(M.Sop) 駒原友美(地域学部2年)／
グレーテル(Sop) 小倉知子(鳥取大学大学院地域学
研究科2年・オペラ協会会員)／魔女・母(Sop) 鶴崎
千晴(オペラ協会会員)／父(Bar) 山田康之(オペラ
協会会員)／語り手(老ヘンゼル) 上萬雅洋(鳥取大
学大学院地域学研究科2年・オペラ協会会員)
演奏:指揮 橋本知明(地域学部2年)／ヴィオラ 生
原幸太(ヴィオラ奏者)＜以西小＞／ヴァイオリン 田
中夏実(農学部獣医学科5年)＜附属小＞／ピアノ
山下依見(地域学部2年)／打楽器 金築恵利佳(地
域学部2年)
演出・舞台監督:西岡千秋
音楽指導:新倉健
照明:伊中昌宏(オハラ企画)

開催期日／会場／参加者数

①H23.2.17／琴浦町カウベルホール(琴浦町立以西小学校)／全校生徒46名,教員6名,以西保育園児3名 保護者数名
②H23.2.25／附属小学校創造活動教室Ⅱ(鳥取市)／4年生75名,教員数名
財源:地域貢献支援事業



上演

新倉
健

西岡
千秋



事業内容

地域学部の授業で学生たちが制作したミュージカルを、地域の幼稚園児、特別支援学校生徒や保護者などを主な対象として毎年行なっている公演である。本年は「芸術文化コース」の学生4名が初めて参加したほか、農学部、工学部、さらに韓国からの留学生(7名)が参加し、参加学生の多様な広がりが見られた。

学生は公演という形で学習の成果を公開することを目標として、自主的な練習のスケジュールを授業時間外に設け、積極的且つ熱心に授業に取り組み、本年度もステージで若さ溢れた熱演を繰り広げた。



開催期日：第1回H23.2.18／白兔養護学校訪問学級 第2・3回H23.2.23／とりぎん文化会館小ホール

財源：鳥取大学地域学部 ごうぎん鳥取文化振興財団
主催：鳥取大学地域学部附属芸術文化センター 助成：ごうぎん鳥取文化振興財団
参加者数：約250名（延べ人数）



上演

新倉 健
佐分利 育代
西岡 千秋



事業内容

国際的に活躍し、注目される現代アーティストの一人、やなぎ みわの講演会である。

彼女の作品My Grandmothers／YUKAは高校美術の教科書にも大きく取り上げられており、若い人の集客も考慮に入れた事業である。

都市と女性像を斬新な切り口でビジュアル化した「エレベーターガール」や50年後の理想の自分を若い女性が特殊メイクで自ら演じる「マイグランドマザーズ」、少女と老女を独自の解釈で寓話化し、異世界へと誘う「フェアリーテール」等、これらシリーズの写真作品で良く知られている。

不可思議で魅力的な新感覚表現の底流に流れる、やなぎ氏の思索の原点を「老いの表現」をキーワードに話して頂いた。

スライドを使ってギリシャ神話、ロダンの弟子のカミュ・クローデル等の歴史的な老いの表現や台湾、東北地方、立山、沖縄等に残る東洋的な老いの表現等を紹介し多様な老いの表現に触れながら、自身の写真作品の根底にある制作意図や特徴などを伝えた内容であった。

今までの方法の他に日本海新聞文化欄、インターネット情報のZitでの広報を行ない集客の工夫をした。

成果

興味深い内容の話は多くの参加者に感銘を与え、現代美術への関心・興味を広げることができた。

積極的な広報活動により、幅広い年齢層が参加した。岡山、米子等遠方からの参加者もあった。

芸術文化コースの学生、院生がそれぞれの役割を意識し、積極的に事業の準備、広報、受付、後片付けに参加し、実践的な経験を積むことができた。

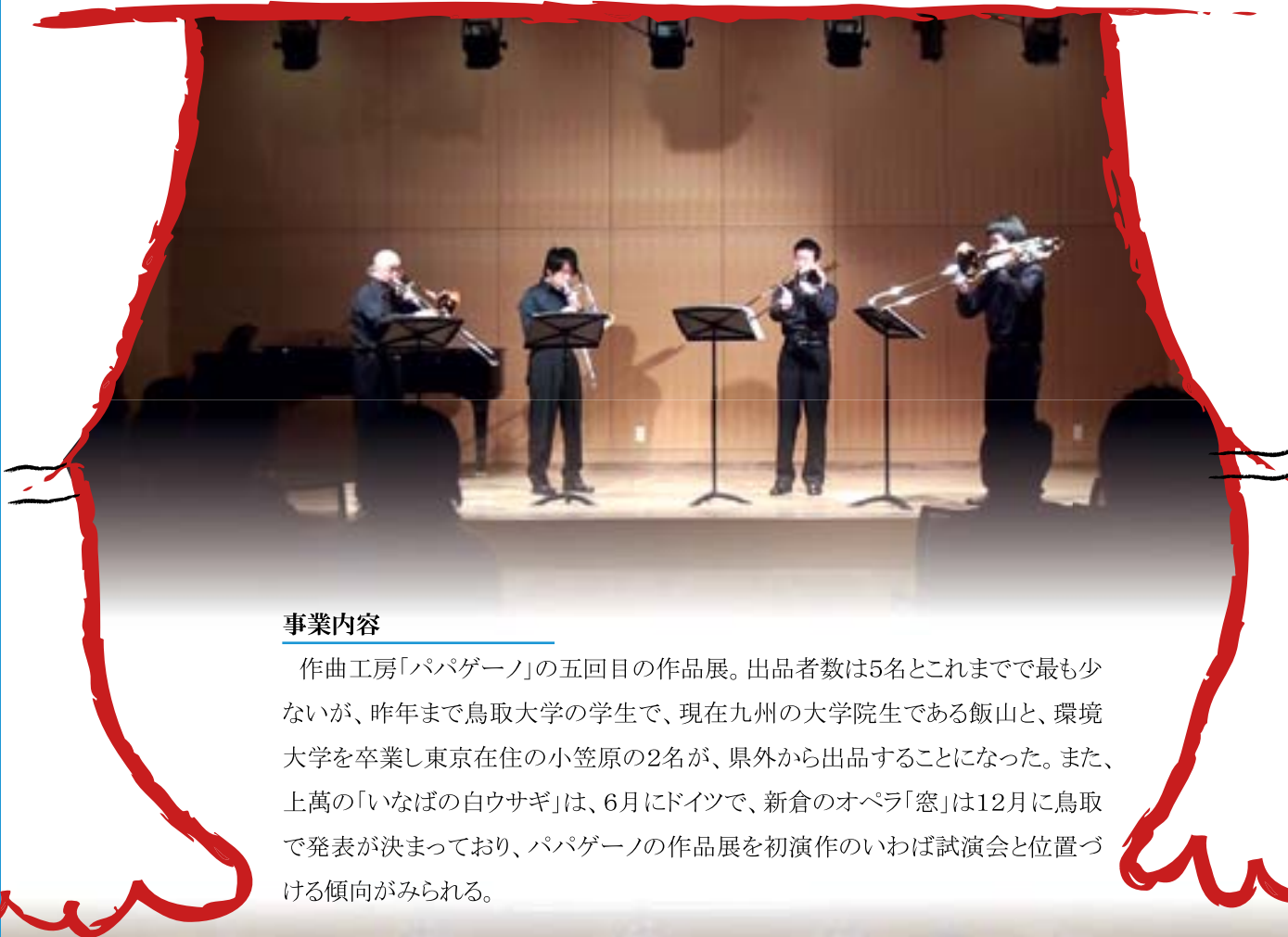


開催期日：H23.2.20 /会場：鳥取大学アートプラザ

財源：鳥取大学地域貢献支援事業

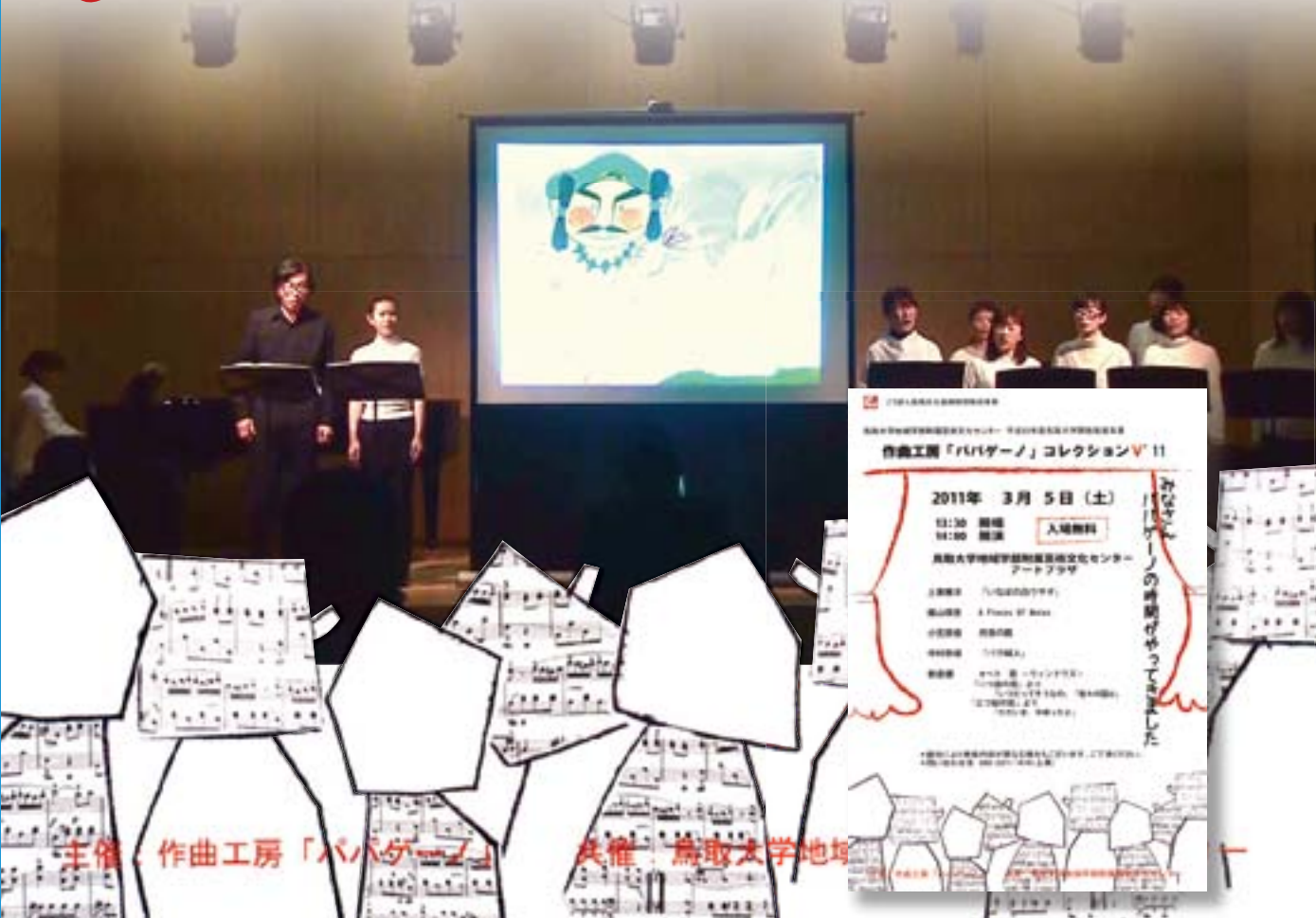
参加者数：70名





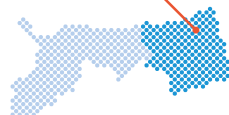
事業内容

作曲工房「パパゲーノ」の五回目の作品展。出品者数は5名とこれまでで最も少ないが、昨年まで鳥取大学の学生で、現在九州の大学院生である飯山と、環境大学を卒業し東京在住の小笠原の2名が、県外から出品することになった。また、上萬の「いなばの白ウサギ」は、6月にドイツで、新倉のオペラ「窓」は12月に鳥取で発表が決まっており、パパゲーノの作品展を初演作のいわば試演会と位置づける傾向がみられる。



開催期日: H23.3.5 / 会場: 鳥取大学芸術文化センター

財源: 鳥取大学開放推進事業 ごうぎん鳥取文化振興財団助成事業
主催: 作曲工房「パパゲーノ」 共催: 鳥取大学地域学部附属芸術文化センター
参加者数: 約40名



上演

制作・創作

新倉 健

事業内容

NPO法人創造障害者福祉サービス事業所における、精神障害の方々を対象とした作業所「はーとぴあ創造」では、作業の他に様々な企画をして、所員の豊かな生活を目指しておられる。昨年度に引き続き、今年度も竹森所長よりの依頼を受け、「はーとぴあ創造」の所員を対象としたコミュニケーションプログラムとして、ダンスワークショップを担当する機会を得た。

1回限りの昨年度のワークショップと異なり今年度は、月1回のワークのまとめとしての発表会を含む、5ヶ月、5回のプログラムを実施した。プログラム実施に際して、約10年のダンス経験を持つダウン症の青年Tさんに指導助手として参加してもらうことも計画した。また、1月には、小鴨地区公民館の高齢者を対象としたプログラム「となりのDAI学校」でもダンスワークショップを行うことになり、今度は、「はーとぴあ創造」のKさんに助手として参加してもらった。

このような経過を踏まえ、「はーとぴあ創造」「となりのDAI学校」そしてTさんが参加するインクルーシブ・ダンスグループ「星のいり口」による交流会的な発表会を計画した。

【ワークショップ】

○はーとぴあ創造

H22.11.23／倉吉体育文化会館 H22.12.25／倉吉未来中心リハーサル室

H23.1.22／倉吉交流プラザ H23.2.20／倉吉未来中心リハーサル室

○小鴨地区公民館・となりのDAI学校

H23.1.29／小鴨地区公民館

【発表会】

H23.3.26／倉吉交流プラザ



はーとぴあ・ダンス発表会プログラム

1. はーとぴあ・ダンス ————— はーとぴあ創造
2. 砂・まぼろし・輝き ————— 星のいり口
3. ガーネット・ムーン ————— ハートピア創造
4. ラップ・タンゴ ————— 小鴨公民館となりのDAI学校
5. ソロのかたまり ————— 星のいり口
6. 春の妖精 ————— はーとぴあ創造
7. はーとぴあ・ダンス2 ————— はーとぴあ創造 星のいり口
8. はーとぴあ・ダンス3 ————— 参加者全員

開催期日：H23.3.26 / 会場：倉吉交流プラザ2F 視聴覚ホール

主催：特定非営利活動法人 創造障害福祉サービス事業所 はーとぴあ創造 小鴨地区公民館
となりのDAI学校 星のいり口 後援：鳥取大学地域学部附属芸術文化センター
参加者数（内訳）：はーとぴあ創造 18名 となりのDAI学校 23名 星のいり口 14名

上演

ワークショップ

佐分利育代

Artissimo(アルティッシモ)とは、
Arte(芸術) + issimo(とっても＝絶対最上級形容詞)の造語で、
「とってもアート」なイベントを目指して名付けました。

このイベントは鳥取大学大学院地域学研究科「地域フィールドワーク」の授業において、大学院生が芸術文化センターの教員の指導を受けながら企画を進めてきたものです。鳥取大学で芸術を学ぶ学生と教育地域科学部芸術表現コースの卒業生、そしてその仲間たちが集まり、作品を発表します。(H20チラシより)



Dance

三島 麻美／岩田奈津子／東 奈緒美／
藤下久美子／金森千巴耶

Music

中村 奈保／小倉 知子／冠野 法子
小西 繭香

Art

井上 佳子／中正 育子／難波由美子
西 淑／山口 響子／山口まどか
伊東 剛志



舞踊

三島 麻美／田中 悦子／相川 千春
岩田奈津子／藤下久美子

音楽

小倉 知子／川西 悠紀／中村 奈保
松浦めぐみ

美術

中正 育子／西 淑／野田 景子
藤木 淳也／山口 響子



開催期日：各年度末 / 会場：とりぎん文化会館 小ホールなど

財源：鳥取大学地域学部附属芸術文化センター運営経費など

主催：Artissimo!!実行委員会 鳥取大学地域学部附属芸術文化センター



このイベントは鳥取大学地域学部「地域教育実践ゼミ」の授業において、芸術文化コース専攻の学生が芸術文化センターの教員の指導を受けながら企画を進めてきたものです。鳥取大学で芸術を学ぶ学生と地域学研究科地域創造専攻の学生、そしてその仲間たちが集まり作品を発表します。(H22チラシより)



音楽

上萬 雅洋／中橋 芳恵／中村 奈保
楊 紅／小倉 知子

舞踊

三島 麻美／東 奈穂美／藤下久美子
松下 育子／相川 千春／田中 悦子



音楽

小倉 知子／中橋 芳恵
上萬 雅洋／中村 奈保

舞踊

田中 悦子／岩田奈津子／相川 千春
田添 幹雄／李 紅梅／松下 育子
井尻 雅代／東 奈穂美／藤下久美子

